

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2024年12月1日		～	2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2024年12月1日		～	2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○訪問先施設評価実施期間	2024年12月1日		～	2025年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6	(回答数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月14日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者のニーズに応じた柔軟な対応を強みとしており、支援プログラムの充実や訪問日時の調整、多様な支援方法を通じて、保護者目線に立った支援を提供しています。	・保護者のニーズに耳を傾け、日々の様子や困りごと、今後の希望などを丁寧にヒアリングします。その上で、支援内容やお子様様子を分かりやすく報告し、保護者が安心出来るようサポートしています。	・学校や園との信頼感を強化していくために定期的な情報交換や意見共有の場を設け、学校や園の指導方針や課題を深く理解し、連携を密にしています。
2	・園や学校のニーズやそれぞれのやり方に応じてプログラムを考へて実行することを強みとしており、現場の状況や指導方針を尊重しながら、プログラムを策定し、柔軟に対応しています。園や学校との連携を大切に、それぞれの環境に適した支援を提供することで、より効果的な成果を目指しています。	・学校の指導方針や環境を尊重しつつ、保護者の思いや要望を丁寧にヒアリングし、双方の中立的立場として支援します。具体的には、定期的な情報共有や調整を行い、双方が納得できる支援計画を策定することで、利用者の成長を支える環境づくりを目指しています。	・定期的な事例検討会を開催したり、スタッフ間で支援現場での課題や成功事例を共有し、意見交換を行うことで直接支援の知識をさらに向上させていきます。
3	・視覚支援教材を用いた支援や、必要に応じた直接支援を積極的に行っています。個々のニーズに合わせて、具体的に分かりやすい教材を活用し、子どもたちが理解しやすい環境を整えることで、効果的な支援を実現しています。また、直接支援を通じて、子どもたちの反応や課題を細かく把握し、適切なアプローチを心がけています。	・報告書を園や学校にも渡して連携を強化し、支援の一貫性を保つことで、利用者にとってより効果的な環境を整えています。報告書には、訪問時の様子や具体的な支援内容、今後の方針を明確に記載し、園や学校の指導方針と整合性を取りながら、協力して支援を進められるよう努めています。	・専門機関や大学等が主催する研修プログラムへの参加を積極的に検討し、最新の支援方法や理論を学ぶ機会を設けられるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門的な知識と経験を持った人材の採用が難しく現在は十分に確保できていない状態なので、特に支援ニーズが多様化する中で、質の高い支援を継続的に提供するためには十分なスタッフ数を確保することが求められると考えられます。	・園や学校、保護者に対して事業の目的や効果が十分に理解されていないことや、既存の支援体制との調整が複雑であることが考えられます。	・質の高い支援を継続的に提供するためには、専門的な知識と実践力を兼ね備えたスタッフの育成が不可欠です。具体的には、定期的な内部研修や事例検討会を実施し、支援現場での経験を共有しながらスキルアップを図ります。
2	・保育所等訪問支援事業の周知があまりされておらず、支援を必要とする方々に適切な情報が届かず、必要な支援を受けられない状態も考えられます。	・園や学校、保護者が外部の支援を受け入れる際に、初めは不安や抵抗感を抱くことが少なくないです。特に、新しい支援体制が既存の環境にどのように影響するかについての懸念や、支援者の意図や能力に対する不信任が生まれる場合も考えられます。	・地域の園や学校との連携を強化し、説明会やパンフレットの配布、ホームページやSNSを活用した情報発信などを通じて、保育所等訪問事業の認知度向上に努めてまいります。
3			